



2021年度 大豆100粒運動 津久井在来栽培資料

● めざせ 豊作！大豆の種まきの前にやっておきたいこと

①肥料は？

基本的に、大豆は「根粒菌」で自ら養分を作りますので、肥料はあまり必要ありません。使うときは一般的な市販の野菜用肥料で結構です。種まきの直前～5日前ごろまでに、畑全体にまきます。あまり早く施肥すると効果が薄れてしまいます。早くても10日前程度にしてください。肥料の量は、肥料の種類・畑の状態・前作によって違います。近隣の農家の方に聞くのが一番ですが、袋に書いてある用法を参考にしてください。作物を栽培していなかった「荒地」の場合は、30%程度多くした方がよいですが、生育状態を見ながら花が咲く頃に追加します。

また、大豆は石灰成分を好みます。肥料と一緒に石灰を100g/m²ほどまくとよいでしょう。



↑まっすぐ等間隔に蒔くために、あらかじめ石灰で線をひいておき、長さ10センチの棒を使いました。

②プランターやバケツ、植木鉢で栽培するときの注意点は？

プランターなら、幅30[㍍]×長さ30[㍍]・深さ25[㍍]以上、バケツは40[㍍]以上のものが望ましいでしょう。大豆の根は下に長く伸びるので、「深さ」が重要

です。水はけを良くするため、粒子のやや大きめな鹿沼土を7～10[㍍]の深さに敷き詰めるとよいです。次項の「土寄せ」のために、縁まで余裕をとってください。

使用する土は、市販の野菜用培土でよいですが、肥料が入っているかいないかを確認してください。肥料が入っている場合は、大豆としてはやや多めの肥料になっていますので、肥料を加える必要はありません。種は、プランターの中心に3[㍍]程度の溝を掘って10[㍍]間隔でまき、手で土をかぶせ、軽く手で押す(鎮圧)とよいでしょう。

● 津久井在来大豆の種まきから収穫まで

6月末～7月中旬 種まき

(種まきから約3週間後と、本葉が14枚くらいのときに土寄せ)



↑津久井在来の花。薄紫色のかわいい花です。

8月中旬 開花

(害虫と乾燥に注意！)

10月初旬 枝豆の収穫

11月初旬～中旬 大豆の収穫

(葉が落ち、サヤを振るとカラカラと音がする頃)





種まき

うねをつくり、10～12センチくらいの間隔でまいていきます。必ず乾いたままの大豆をまいてください。
(水で戻す必要はありません) **まいたあと、水やりは不要です。**

5日から1週間で芽が出ますが、「豆もやし」のような状態がもっともハトやカラスに狙われる時期です。タネをまいた列にあわせて、テグスを張っておくと、鳥よけになります。底を切ったペットボトルをかぶせておくのも有効です。また、本葉が出るまで小さなポットで目の届く場所で育て、畑に移植する方法もあります。移植の際は、根を傷つけないように気をつけましょう。

土寄せ

うねの間の土を両側から寄せて、土をかぶせます。種まきをして3週間経った株で実習してみました。
(写真右下)

- ①除草の効果があります。
- ②株の背が高く育ち倒れやすくなるのを防ぎます。
- ③根が多く出て、土からの養分を多く取り込みます。

このあと、さらに成長して、本葉が14枚くらいになったら、もう一度、一番下の葉が見えなくなるくらい土を寄せてください。(8月上旬撮影・2回目の土寄せ↓)
鉢やプランターの場合、土を足すことで土寄せの代わりになります。



種まきから3週間経った津久井在来↑



↑土寄せ前



↑土寄せ後

株が立ち上がって畑がスッキリします。



↑ 株を起こす役・鍬で土を寄せる役のふたり一組で行うとよいでしょう。



くわを使ってまわりの土を根元に寄せます。

● 農薬について

花が咲いて、サヤがつく時期は病虫害が心配です。カメムシなどは、ついたばかりのサヤの中味を吸ってしまい、「サヤはあるが実が入っていない」ということになります。ガムテープなどを使ってカメムシを駆除し、無農薬栽培を成功させた学校もありますが、**農薬を使う場合は、注意書きをよく読んで、安全に配慮して散布しましょう。** ホソヘリカメムシは、一見アリのようなので見逃さないように！

□一般的に手に入れやすい農薬は「スミチオン」です。農家では、通常収穫までに3～4回散布しますが、学校での栽培ではできるだけ農薬を使わずにすませたいところです。

花がひとつ、ふたつ咲いたことを確認したらすぐにまくこと が大事です。
害虫が多いようなら、様子を見て2週間後にもう1回散布してください。

□栽培面積が小さかったり、プランターでの栽培の場合は、花が咲く前に虫が侵入しないようにネットをかぶせるのも有効です。



←サヤはついたものの、実が入っていない状態
(10月上旬)

□木酢液は製法によって品質・効果が安定しないので一概には言えません。ただ、強い匂いでムシを寄せ付けないために忌避剤として使うので、効果が薄れないように ひんぱんに散布する必要があります。

□カメムシ類はエサのあるところを見つけると「集合フェロモン」を出します。1匹でもいると、どんどん増えますので、早めに対策を。つかまえたムシをつぶすと、そのにおいにもひきつけられて集まってきます。

□畑のまわりが手入れをしていない藪や林、空き地だと、害虫が発生しやすくなります。

ホソヘリカメムシ↓



● Q&A

□葉ばかりが旺盛に茂って、実がつきませんでした。なぜでしょうか？

…葉はたくさんついて大きく育ち、サヤがついているのに実がふくらまなかったり、サヤがつかないことがあります。カメムシなどの害虫が実の養分を吸ってしまい、実に行くはずの養分が葉に使われてしまうことが原因です。つまり、「葉が茂ったから実がつかない」のではなく、「実がつかなかったから葉だけが茂る」のです。対策としては、花が咲いたらすぐに害虫防除対策を行うことです。（「農薬について」の項参照）

□神奈川県には、津久井在来のほかにも地大豆がありますか？

…鎌倉・逗子の近辺に「たのくろ豆」と呼ばれる大豆が農家に残っています。「たのくろ」とは田んぼの畔のこと。古来大豆は畔を支えるために植えられ、農家の自家用味噌に加工されていました。「たのくろ豆」は固有の品種名ではなく、昔から鎌倉周辺で農家が自家用に育てていた品種だと思われます。鎌倉市の鎌倉中央公園でも「山崎・谷戸の会」というグループがたのくろ豆の保存活動を行っています。また、小田原にも別の品種が残っており、農業技術センターに保存されています。日本各地には、万を超える種類の地大豆があります。児童の皆さんといっしょに調べてみるのもよいのではないのでしょうか。

□まく場所がなくて、残ってしまった大豆はどうすればいいですか？

…よほど保存状態が悪くなければ、来年でもまくことができます。ただし、①しっかりと密封して、冷蔵庫の野菜室に保管する。最適なのは15℃くらい。②まく場合は、大きめの粒のものを選ぶ。虫食い、変色したものは避ける。

□同じ場所で連作してよいでしょうか？

…できれば避けたほうがよいですが、2～3年なら問題ないでしょう。肥料を与えてください。

□コンパニオンプランツとしてふさわしいものはありますか？

…効果が検証されたものではありませんが、試してみると面白いですね。一般的にはハーブ類がよいと思われます。ニンニク・キンレンカ・マリーゴールド・シソ・ネギ・ニラなど、匂いの強いもので試してみてください。ミント類は、宿根性で後処理の問題があり、大豆と競合しそうなので避けたほうがよいでしょう。

□どれくらいの広さで、どれくらいの量が採れますか？

…一般的には、1㎡あたり15株植えたとして（あぜ幅70～80cm、株間10～12cm）、150g～200gの収穫です。通常、1株に30～40のサヤがつきます。ひとつのサヤには2～3粒入っていますから、上手に育てれば十分に「1粒が50粒」になるはずですが、まいた大豆と収穫した大豆、数を数えてみるのも楽しいかもしれません。

□栽培に関して、困ったことや質問があれば、どうすればいいでしょうか？

・・・学校の図書室にもよく常備されている「ダイズの本」(農文協)という本が、参考になります。
近隣の農家の方のサポートがあるのが一番安心ですが、困ったときは、相模原市緑区根小屋(旧津久井町)の農家・石井好一さんが質問を受け付けてくださいます。お気軽にお電話を。「大豆100粒運動を支える会」のFacebookページも情報が充実しています。

石井好一 090-9928-8342 (留守番電話でも、メッセージを残してくださいね)

□津久井在来は、どんな加工に向いていますか？

・・・豆腐・納豆・味噌・きなこなど、さまざまな加工ができるのが大豆のよいところです。
4年生で豆腐作りに成功した小学校もあります。できたてのあたたかいお豆腐は格別のおいしさだったそうですよ。学校に「コタツ」を持ち込んで、納豆作りにチャレンジした学校も。
味噌の場合は、ひとり1キロの大豆があれば、3キロ近い味噌を仕込むことができます。
近隣のお豆腐屋さんや、父兄などと協力していろいろな加工を楽しんでみてください。
加工に関してのご相談もお気軽にどうぞ。



相模原市立中央小学校4年生の味噌作り

● そのほか

□カラ梅雨で種まき以降好天が続くと、開花が早まります。8月に乾燥が続くと、実のつきが悪くなる場合があります。開花からサヤが2〜3割程度になるころまで1週間に1回程度、うねの間にたっぷりと水をまくとよいでしょう。葉の上からかけず、土に直接かかるようにまくこと。

□「大豆100粒運動を支える会」ではFacebookでも、「大豆100粒運動」参加各校の様子をご紹介します。メールでの写真提供もお待ちしております。

□tvkの情報番組や「大豆100粒運動を支える会」のSNSなどで、各校の活動の様子や、大豆に関する情報を紹介する予定です。取材のお願いをさせていただく場合もありますので、ご無理のない範囲でご協力をお願いいたします。

□その他、大豆の「困った！」がございましたら、ご相談ください。

tvkホームページ内「大豆100粒運動」お問い合わせフォームからどうぞ



寒川町立旭小学校5年生の豆腐作り